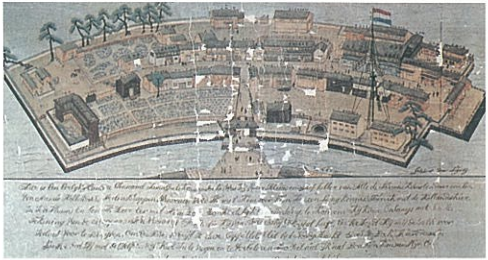
遣明船　（「真如堂縁起」真正極楽寺蔵、寛永元年・1624年画）
室町時代、足利義満は貿易の利益に着目し、明と交易を開始、兵庫の津は大陸貿易の基地として栄えた。



長崎出島　（長崎市立博物館蔵）
江戸時代、ポルトガル人を収容する目的で建設された居留地。寛永18年（1641年）以降幕末までオランダ人が居住し、鎖国下で西洋への唯一の窓口であった。最後の出島・オランダ商館長はロンケル・クルチュースである。

露西亜船並人物之図　（長崎文錦堂版、文化２年（1805年）、神戸市立博物館蔵）
文化元年（1804年）９月、ロシア使節レザノフは、ナジェージタ号他１隻の軍艦を率いて長崎に到着し、我が国との通商を求めたが、幕府によって拒否された。

ペリー来航絵　（横浜開港資料館蔵）
嘉永６年６月３日アメリカ東インド艦隊司令長官ペリーが軍艦４隻を率いて浦賀に来航、米国フィルモア大統領の親書を提出して開国を要求した。

江戸時代末の神戸、走水、二ッ茶屋村と兵庫津

（武庫連山海陸古監、若林秀忠筆、明治36年頃、神戸市立中央図書館蔵）

左の街が兵庫、当時戸数5,500余、人口2万余で西摂第一の都会であった。中央が湊川、その右が走水村、戸数140余、次いで二ッ茶屋村、戸数300余、神戸村、戸数500余である。

和田崎砲台

安政元年（1854年）9月通商を求めて来航していたロシア使節プチャーチンの率いる軍艦ディアナ号が突然大阪湾に侵入した。この事件をきっかけに幕府は和田岬、湊川尻、西宮などに砲台を築くこととし、和田岬砲台は勝海舟の設計で元治元年（1864年）に完成した。

佛蘭西國條約之稅則 二全 二

英吉利國條約之稅則 三全 三

阿蘭陀國條約之稅則 四全 四

魯西亞國條約之稅則 五全 五

安政五ヵ国条約

（神戸市立博物館蔵）

安政5年（1858年）6月19日の日米修好通商条約を皮切りに、同年7月オランダ、ロシア、イギリスと、9月にはフランスと同様な条約を締結して兵庫開港を取り決めた。これを総称して安政五ヵ国条約と呼んでいる。

徳川慶喜、兵庫開港を約束

（神戸市立博物館蔵）

慶応3年は諸外国と会約した兵庫開港の年であったが、朝廷の反対で開港の勅許がなかなか下りなかった。各国の駐日公使が幕府に対して開港準備を催促する中で、同年春、将軍徳川慶喜は自ら大坂城で各国公使と会見し、同年12月7日の開港を言明した。